

1 単元名 わたしたちの生活と工業生産

2 単元について

小学校学習指導要領解説社会編（平成29年7月）（以下「解説」という。）の第5学年の目標の(2)では、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」と示されている。また、平成30年度学校教育指導方針の「小学校教育の充実（社会科）」の努力事項として、「習得した知識及び技能を活用し、社会的事象の意味等を多角的に考える力」の育成が示されている。これらから、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を育てることが重要であると考える。

本学級の児童は、(省略)
そこで、小学校第5学年「わたしたちの生活と工業生産」において、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を育てていくために、消費者の需要と関連付けて自動車をつくる工業に関わる人々の工夫や努力を捉える学習活動を展開していく。捉えさせ、事前に家庭で自動車への需要を児童に調べさせ、それを消費者の視点として捉えさせる。そして、児童を自動車会社の社長と設定し、ここで自動車をつくる工業に関わる人々としての、当事者意識をもたせ、その上で、「よりよい自動車をたくさんつくってたくさん売る」をテーマとし、達成するためにどんな立場の人々の仕事に関わっていかねばならないかを予想し、それを学習課題として調べていく計画を立てる。次に、資料等から読み取れる自動車をつくる工業に関わる人々の工夫や努力、何のための工夫なのかを「発見シート」に記述し、それらに関連付けて「プロジェクトノート」に記述することによって、単位時間のまとめとする。単元の最後、プロジェクトノートを基にして「わたしたちの自動車づくりのまとめ」に表し、消費者の需要に対応しながら自動車をつくることについてまとめる。以上の学習を展開することで、児童の社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を育てていきたい。

3 目標

- 自動車をつくる工業の様子に関心を持ち、製造の過程や製品の販売、輸送にみられる工夫や努力について意欲的に調べようとする。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- 消費者の需要を踏まえて、自動車をつくる工業に関わる人々が様々な工夫や努力をしていることを捉え、適切に表現することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- 自動車をつくる工業の様子について、地図や統計などの資料を活用して必要な情報を集め、工業生産に従事している人々が様々な場面において工夫や努力をしていることを読み取ることができる。(資料活用の技能)
- 自動車をつくる工業に関わる人々が消費者のニーズに応え、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解することができる。
(社会的事象についての知識・理解)

4 指導及び評価の計画（7時間）本時は○

次	時	学習活動	評価規準・方法	関	思	技	知
一	1	自動車会社の社長として、「よりよい自動車をたくさんつくってたくさん売る」手段について話し合い、学習計画を立てる。	自動車をつくる工業の様子に関心を持ち、自動車をたくさんつくってたくさん売るための対策を追究しようとしている。(ノート、観察)	◎	○		
	2	組み立て工場働く人々の工夫や努力について調べる。	消費者の需要を踏まえて、組み立て工場働く人々の工夫や努力について捉えている。(発見シート、プロジェクトノート)		◎	○	
	3	部品工場働く人々の工夫や努力について調べる。	消費者の需要を踏まえて、部品工場働く人々の工夫や努力について捉えている。(発見シート、プロジェクトノート)		◎	○	
二	4	輸送や現地生産に関わる人々の工夫や努力について調べる。	消費者の需要を踏まえて、輸送や現地生産に関わる人々の工夫や努力について捉えている。(発見シート、プロジェクトノート)		○	◎	
	5	自動車を設計・研究する人々の工夫や努力について調べる。	消費者の需要を踏まえて、自動車を設計・研究する人々の工夫や努力について捉えている。		◎	○	

			(発見シート, プロジェクトノート)				
二	6	販売店で働く人々の工夫や努力について調べる。	消費者の需要を踏まえて、販売店で働く人々の工夫や努力について捉えている。 (発見シート, プロジェクトノート)		◎	○	
三	⑦	「わが社の自動車づくりのコンセプト」を紹介し、日本の自動車づくりのよさを捉える。	自動車をつくる工業に関わる人々が消費者のニーズに応え、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解している。 (自動車づくりパンフレット, 観察)	○			◎

5 本時の学習

(1) 目標

- 自動車をつくる工業に関わる人々が消費者のニーズに応え、優れた製品を生産するために様々な工夫や努力をしていることを理解することができる。
(社会的な事象についての知識・理解)

(2) 本時のねらいに迫るための言語活動

- 「わが社の自動車づくりのコンセプト」を紹介し、考えた理由をクイズ形式で話し合う活動を通して、意見交換、学び合いの場とする。

(3) 準備・資料

発見シート, プロジェクトノート, 自動車づくりパンフレット, 付箋(メモ用紙), 様々な立場での工夫や努力を記入したワークシート(パンフレットに貼付), コンセプトづくりのグッドモデル(水産業), 大型テレビ, 文教用書画カメラ, 学習の足あと(掲示物)

(4) 展開

形態 時間	学習活動・内容	指導上の留意点・評価
一斉 2分	1 本時の学習課題を確認する。 「わが社の自動車づくりのコンセプト」を紹介し、自動車をつくる人々の工夫や努力をとらえよう。	・前時までの学習を踏まえて、自動車会社としてのコンセプトをつくってまとめていくことを伝え、学習への意欲を高める。
一斉 3分	2 自動車をつくる工業に関わるそれぞれの立場での工夫や努力について確認する。	・組み立て工場, 部品工場, 輸送, 設計, 販売店にそれぞれのまとめを発表させて、それぞれの工夫が何のためなのかについて確認する。 ・工場で作業をする人に対しての工夫を見つけた児童がいたことを話し、消費者だけでなく自動車をつくる人に対しての工夫もあることに気付かせる。
一斉 10分	3 それぞれの工夫や努力を関連付けて、「わが社の自動車づくりのコンセプト」を考える。	・日本の水産業の特色を表すコンセプトのグッドモデルを示し、「わが社の自動車づくりのコンセプト」を考える上での参考にさせる。 ・前時のうちに、次時においてコンセプトを考えることを伝えておき、すぐに書けるようにする。
グループ 10分	4 自動車づくりのコンセプトを紹介し合う。	・思うようにコンセプトが思いつかない児童に対して、発見シートやプロジェクトノートに書いてある工夫や努力を組み合わせて考えるとつくりやすいことを伝える。 ・教室の側面に、今までの学習の足あとを掲示し、児童がいつでも学習を振り返ることができるようにする。 ・机をプロジェクトチーム(グループ)の形にし、コンセプトを紹介させる。その際、聞いている児童には、自分の会社にとって参考になる部分についてメモを取りながら聞くよう助言する。 ・コンセプトを考えた理由を付箋紙等で隠し、クイズ形式にしてグループの友達に考えさせる。答えの部分は必ず事前に書かせておく。 ・発表を聞きやすくするために、発表する児童には、必ず自分のパンフレット

